



## 一緒に子育てをする仲間になること

園長 野中 泉

「自分の子どもができれば、絶対にアトムに入りたいと思っていたんです」そう、うれしそうに話してくれたのは、この春、息子と共に育休から復帰するアトムの保育士です。彼女だけでなく、アトムには、自身がアトムで働く職員であると同時にアトムの保護者でもあるという人が何人もいます。もっと言えば、長く働く職員の半分以上がアトムの卒園児の親、つまり保護者でもあり保育士でもある立場を経験しているのです。親としてアトムに出会い働くことを決めた人と、アトムで働くことが先で、子育ての場にもアトムを選んだ人の両方がたくさんいる。アトムでは、あまりに当たり前のこの事実は、外から来た私にとっては、本当にびっくりすることです。しかも、それぞれが職員でも親でもある複雑な自分の立場に葛藤がないわけではなく、むしろ悩みながら、時には泣きながら、それでもここで自分の子だけでなく、他人の子の育ちも支えるという面倒な選択をしたいと思えた、そのことの意味を考えながらいます。

私はアトムに来てまだ半年ですが、この短い間でもアトムの日々はとてつもなく賑やかです。まず、アトムの子どもたちは、本当によくケンカをします。おもちゃをとりあつてケンカをし、散歩に行くときに手をつなぎたくないと言っているとケンカをし、自分はこんなに〇〇ちゃんが好きなのに相手が自分を好きだと言ってくれないとケンカをします。アトムの職員は、そんなケンカを大人の都合でただ止めるようなことをせず、根気よくその気持ちに寄り添い、その子自身の言葉で自分の気持ちを相手に伝えていく力を丁寧に後押しします。子どもたちはケンカを通じて仲間の個性を知り、自己表現の力を養い、譲り合ったり他人の気持ちを理解することを覚えていくのです。そして同じように、アトムでは大人もよくケンカをします。「こんな言葉に傷ついた」と保護者から保育士が怒られることもありますし、「なんで、わかってくれへんの」と保育士同士がぶつかることもあります。保護者同士のトラブルの間に入った保育士が「余計なことをするな」と叱られ泣き出してしまうこともあります。あまりに、次々にいろいろあるので「なんでこんなにアトムは事件ばかり」と思わずぼやいた私に、自身もかつてはアトムの保護者であり、その後無認可時代の所長としてもアトムを支えた山本健慈先生（現理事）がこんなふうに言いました。「アトム以外の場所でも、本当は事件は起こっているはずなんや。でも、大概の場所では、それをなかったこととして蓋をして過ごしている。対して、アトムはどんな小さなことも、表に出してみんなで考えようと開示するから、トラブルが見えてくる。それは、とても健全なことだよ」。

人とぶつかったり、ケンカになることは、正直しんどいことです。根が弱虫な私は怒っている人がいるだけで、尻込みしそうになります。でもそんな私を励ますのは、泣きながらも「俺はこれが嫌やっ」と全身で表現する小さな子どもたちであり、私と同じくらい弱虫なのに「お母さんが今苦戦していることは、私も苦戦してきたことやで」と自分の弱さもさらけ出しながら、「一緒に考えよう、一緒に子育てしようよ」とおせっかいをやめない保育士たちの姿です。

アトムにまた新しい春がやってきました。新入園児 29 名を迎えて子ども 145 名、職員 48 名で新年度がスタートです。きっと、また賑やかな日々がはじまります。めんどくさくて、嫌になってしまうこともきっといっぱいあります。でも、その度に「大丈夫、ひとりじゃない」と誰かがきつと声をかけてくれる、そう信じて、一緒にはじめの一步を踏み出しましょう。